

黒田山本家の伝承

勘助の長男、^{かんぞうのぶとも}勘蔵信供が1575年（天正3）、長篠設楽が原の戦いで戦死、二男の**助次郎信俱**（のち勘次郎信俱）は、武田家滅亡後北条氏に仕え、1590年（天正18）駿河山中城の合戦、秀吉の小田原攻めの時、戦死したとされているが、これは真実ではないと山本家で伝えられています。深手を負いながらも先祖の菩提寺である駿河の先照寺（富士宮市）に逃げ、その寺に潜伏して傷を治した後、父祖の旧領地の一部である三州八名郡宇利庄**黒田村**まで逃げて土着したとされています。これは先照寺にも、勘助の子供が傷ついて逃げてきたという言い伝えがあり、一致しています。

2013年に発行された「常在戦場～五十六・勘助の理念を尊重」という冊子には、先照寺39世住職の話として次のように紹介されています。

「勘助の三世（助次郎）は、山中城から愛鷹山を越えて先照寺にたどり着いた。助次郎は家伝薬を持参しており、3ヶ月ほど屋根裏に潜んで治療し、何処へ行くとも言わず出て行った。先照寺の隣家は住職の祖母の家で戦前まで「^{こうやく}膏薬家」で、膏薬は評判でよく売れ、資産家になった。」

この薬こそ、新城黒田山本家にも家伝薬として伝えられており、新城でもよく売れたとの伝承や、1795年（寛政7）に七代五郎左衛門の時、京都御所に^{さんだい}参内した記録が残されており、通じるものがあります。助次郎が黒田をめざしたのは、長篠古戦場があり、兄勘蔵信俱の戦死地があるためだろうとされています。

一方、山本家の由緒書の系図にはもう1枚残されており、それによると勘助には長男の信供、二男の助次郎の他に、長女の伊勢守の母、三男の善左衛門の**4人の子**がいたとも記されています。このうち長女は腹違いの子と推測されているようですが、やはり子供にも謎が多いようです。

<参考> 「山本勘助のすべて」「山本勘助」上野晴雄 新人物往来社
「常在戦場～五十六・勘助の理念を尊重」 山本信夫・良子



2代勘助（信供）の供養塔



山本家の墓所 右端が3代勘助（助次郎）の墓